

令和元年6月 市長定例記者会見

2019年6月10日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから6月の市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと存じます。事業発表に係る質疑応答が終了いたしましたら、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行いたします。

なお、ご質問の際は、お手数ではございますがご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようご協力をよろしくお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願い申し上げます。

【市長】 それでは、6月の定例記者会見ということで、よろしくお願い申し上げます。

6月の人事異動に伴いまして、組織改正をして新しい体制になりました。よろしくお願い申し上げます。この新たな体制のもとに、北陸新幹線敦賀開業、また人口減少対策に積極的に取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、先日、日本遺産の追加認定ということで、北前船寄港地・船主集落の認定をいただきました。新たに構成文化財が5件増えましたので全部で10件になった次第ですが、もう一つのトンネル群につきましては認定されませんでしたので、継続して今年も取り組んでいくということになっております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いします。

【市長】 発表項目については4つございます。

1つ目ですけれども、令和元年度6月補正予算案概要ということで、4月に市長、市議会議員選挙が執行されましたことから当初予算を骨格予算として編成しておりましたので、今回の6月補正につきましては、敦賀躍進の実現に向けた市政運営を基本方針とし、喫緊の課題への対応や各事業の継続性にも配慮した編成といたしました。

まず、基本方針の1つ目、「住みたくなるまち敦賀」のまちづくり推進につきましては、地域コミュニティ活動の促進を図るため、各区が実施する町内会館等の改修経費に係る補助金を計上するとともに、敦賀へのUIターンを促進するため、東京圏から市内に移住し、市内中小企業等へ就職する方に対する補助金を計上いたしました。

また、洪水ハザードマップの作成に係る経費や、災害用マンホールトイレの整備工事費を計上し、地域防災力の強化、災害時における避難所の生活環境向上を図ります。

さらに、老朽化する学校施設に対応し、児童生徒の学習環境を向上させるため、角鹿小中一貫校整備に係る工事費等を計上。総合運動公園陸上競技場につきましては、第3種公認を取得するとともに、幅広い活用が可能となる施設とすべく改修工事費を計上いたしました。

次に、「夢と希望に満ちた地方都市の実現」につきましては、地区の皆様の要望を受け、衣掛町における町界町名地番整理に係る経費を計上し、住所の二重表示解消を進めます。

また、西浦地区のバイパス道路として、市道西浦2号線の工事費を計上するとともに、

北陸新幹線敦賀開業に向けた駅周辺整備を行うため事業用地の購入に係る関係経費を計上いたしました。

3つ目の「敦賀の「宝」を磨き地域経済の発展」につきましては、中心市街地活性化に向け、門前町のにぎわいを創出すべく、イベント広場兼駐車スペース機能を持つ多目的広場の整備費を計上するとともに、国道8号本町通りの2車線化に伴い創出される道路空間に係る美装化整備に係る経費を計上いたしました。

また、日本・ポーランド国交樹立100周年を記念したシンポジウム開催経費や、国史跡武田耕雲斎等の墓の活用整備に向けニシン蔵の調査費等を計上し、敦賀ブランドを積極的に発信します。

なお、基本方針以外の主な事業といたしましては、一般会計では清掃センター整備に係る基本計画等の関係経費を、産業団地整備事業特別会計では分譲地売り払いに伴う県借入金金の返還金を計上したほか、水道、下水道事業各会計において、国庫補助の内示決定を受けた建設改良費等を計上いたしました。

以上が今回補正予算の概要でございます。

続きまして、暴力追放敦賀市民会議決起大会の開催についてでございます。

6月29日土曜日午前9時30分から南公民館におきまして、市民による暴力団排除意識を具体的な行動として実現させ、暴力団排除の機運を高めるとともに、組織の弱体、壊滅を図ることを目的に、今年で4回目となる暴力追放敦賀市民会議決起大会を開催します。南公民館で決起大会を行った後、本町1丁目商店街アーケードを街頭行進いたします。

それから3つ目ですが、令和元年度市民のみなさんとのざぶとん会の開催についてでございます。

市民の皆さんのまちづくりに関するご意見を直接お聞きするため、来月から市内11カ所においてざぶとん会を開催します。2期目につきましても、このざぶとん会で市民の皆さんが日々の生活の中で何を感じ、どのようなまちづくりの考えをお持ちなのか、直接ご意見をいただきたいと思っていますので、多くの方々の参加をお待ちしております。

それから、4つ目ですけれども、令和元年度敦賀市職員採用候補者前期試験の実施についてでございます。

今年度は、大学卒業程度の事務職、技師と学芸員、保育士のほか、社会人枠として民間企業等経験者を募集します。受付期間は6月14日金曜日から28日金曜日まで、1次試験は7月28日日曜日、敦賀市立看護大学で行います。第2次試験は8月下旬、合格発表は9月上旬を予定しております。

職員募集に当たっては、定員の適正化を念頭に、定年退職等による欠員補充、各年度における採用バランス等を考慮するとともに、I J Uターンの推進のため社会人枠を実施することといたしました。

短大、高卒程度の事務職、技師等対象の後期試験につきましては、7月上旬に募集要項を公表する予定になっております。よろしく申し上げます。

以上で発表項目は終わります。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただいま発表いたしました項目についてご質問をお受けしたいと存じます。最初に幹事社さんから、よろしくお願ひいたします。

【記者】 補正予算からまずお伺いしたいんですけれども、今回、一般会計に絞って言う

と、規模がかなり大きいんですけども、これは角鹿小中学校の校舎建築がかなり大きな額で入っているというのはあるんですけども、それ以外で何か予算の規模拡大の要因となるようなものはどういったものがあるのでしょうか。

【市長】 今回の肉づけ予算では一般会計で約39.5億円の大型補正となっておりますけれども、これは、今おっしゃったような角鹿小中学校の小中一貫校整備事業のほかに、運動公園陸上競技場改修事業、北陸新幹線関連事業等の大型プロジェクトというのがございます。もし詳細が聞きたかったら部長のほうから答えます。

【総務部長】 お手元にお配りさせていただきました資料の令和元年度6月補正予算についての資料ナンバー1のほうをおめくりいただきまして、11ページ以降になってまいります。

これはそれぞれの基本方針に基づくテーマ別事業の一覧表になっておりまして、こちらのほうにそれぞれの項目ごとの金額と、拡大か新規かとか、こういった区分に分かれております。

大きなものは、今おっしゃったように小中一貫が一番目立って大きいんですけども、それ以外には金額的に、それぞれおめくりいただきますと列挙されておりますので。例えば、子育て世帯等の負担軽減プレミアムつき商品券の発行事業費とか、あるいは運動公園の陸上競技場の改修事業費、ページをめくっていただきますと、市道西浦2号線の整備事業費、また北陸新幹線駅周辺施設整備事業費、また下のほう、3番目のテーマへ行きますと、国道8号空間整備事業費、また駅周辺整備推進事業費、次のページの産業団地の関係の公債費の元金償還分でございます。こういったものが主なものでございます。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

続きまして、同じく幹事社さん、お願いいたします。

【記者】 大型の予算、補正後の予算になっているということで、何か今後の財政運営である程度圧迫されるかと思いますが、そういったところで今後こうしていくというふうなお考えがあれば伺いたいというのが一つと、あと、予算の概要の説明でもありましたが、かなり新規の事業も多くなっているということで、何か特にご注力されたい事業などがありましたらお伺いできればと思います。

【市長】 財政的な影響ということにつきましては、大型プロジェクトが実施されることに伴いまして、ある程度予定がついておりましたので、既に公共施設等総合管理基金に積み立てを行って備えてきている部分があります。また、公債費の増加が見込まれることから単独債及び借換債の発行抑制を行っておりまして、さらに減債基金にも積み立てを行って後年度の負担抑制というのを進めているところです。

長期的な見通しにつきましては、今後、中期財政計画などでお示ししたいというふうにご考えています。

特に進めていきたいということにつきましては、ずっと長年の懸案でありました角鹿小中学校がやっと形になってきましたし、小中一貫教育も進めてきておりますので、しっかりと予定どおり進めていきたいというふうに思っております。また、新幹線も来ますので、新幹線につきましてもしっかりと対応していきたいと思っております。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いをさせていただきます。発表項目につきましてご質問がありましたら挙手をよろしく申し上げます。

【記者】 当初予算の説明の中で、たしか6月補正に新庁舎の本体の建設工事費が盛り込まれる予定だみたいな説明があったと思うんですが、今回、補正予算には含まれていませんが、本体工事はどういう状況になっているのか教えていただけますか。

【市長】 部長のほうからお願いします。

【総務部長】 現時点におきましては、最終的な実施設計、実施設計の詳細部分につきまして精査中でございます。工事費等の最終段階、最終調整、精査中でございます。これが終了でき次第、できる限り今定例会に追加議案として提案したいと考えております。

【記者】 金額はまだ言えないという。

【総務部長】 金額につきましては、もうしばらくお待ちいただきたいと存じます。

【記者】 もう1点。補正予算で掲げられている日本・ポーランド国交樹立100周年を記念したシンポジウム開催があるんですが、これは敦賀港開港120周年とも関連するということでしょうか。

【市長】 はい。冠をもらってやります。

【記者】 もう1点。その120周年の冠をつける事業というのは、ほかに何かこの補正ではあるのでしょうか。担当に聞いたほうがよろしいか。

【市長】 部長のほうで答えると思います。

【総務部長】 当初に幾つかありまして、今回、当初予算のほうでは総額で1億4,568万6,000円ございまして、今回の6月補正では、新たに追加といたしまして3つの事業を考えております。1つ目が護衛艦かがの一般公開、もう一つは11月9日開催のシンポジウム、3つ目が12月6日、7日開催のオペラ。この3つを該当するものとして考えております。

これと、本体部分で新聞広告の掲載、こちらのほうもちょっとございます。

【記者】 市長選後の大型補正ということで、選挙中に掲げられた公約の中で、公約に掲げた中で最も実現に向けて入れた部分、入れた事業というのはどのようなものになるのか教えてください。

【市長】 大体継続してやっていますので、公約の中でもうたっているものも継続しておりますから、新しくこれをと特に力を入れるという予算にはないんですけども、組織の中で人口減少対策の関係の室、移住定住推進室をつくりましたので、そこのところをしっかりとワンストップにして受け皿をつくって、子育てにしてもいいですし、働く場所からでもいいですし、帰ってくれるようなシステムをつくらうということを進めようとしています。ここが一番、今気にしているところです。この中でと言われると。

あとは、観光部をつくりましたので、当然、新幹線の受け皿づくりと、それから人道の港の発信というところはきっちりやっていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進みたいと思います。こちらも幹事さんから、ありましたらよろしく願いいたします。

【記者】 まず、またもんじゅのことでお伺いしたいんですけども、また今年度の燃料取り出しが、当初7月と言われていたんですけども、やはり10月に延期されたんですけども、その受けとめをまずお願いします。

【市長】 昨年度の作業開始に続きまして今年度も延期されるということは、一つ残念なことではありますけれども、やっぱり安全第一に進めていただかなくてはいけないという

ことを思っていますので、遅れることに対しては余り大きく考えずにおります。

全体工程、最後のところで帳尻が合うということになっていきますので、それでいいのかなというふうに思っていますけれども、前回の工程が遅れたというのは、やっぱり工程の練り方が甘かったんじゃないかなということは感じておりますので、今回延びたということにつきましては、この中でしっかりと工程を管理して、できるという実績を示していただきたいなど。それが私どもに対する信頼の回復につながってくるんだらうというふうに思います。ですから、この10月に延びたということを引きつらりとおさめていただきたいと思っています。

【記者】 今市長も触れられたように、昨年度、当初、年内で100体と言われていたのが1カ月延長され、1カ月延長したけれども100体に到達できず86体で終わったと。今年も取りかかりがさらに遅れることになったと。ただし最終は変更ないということになっているんですけども、こういうことが続くと、本当に計画どおり最終的に燃料取り出しが5年半で終わるのかなと、計画自体の信頼性が損なわれると思うんですけども、そこについては特に、今触れられたような意見のほかには何かあればお願いします。

【市長】 そうですね。機構さんの動きとして、私から、うがった見方になるかもしれませんが、真面目過ぎるような、何か100点満点をとらないとだめみたいな工程の作り方をしているんじゃないかなということを思います。ですから、余裕を持って、例えば80点だったら合格だよねというような工程の中で、早く進む場合もあるし遅くなる場合もあると。そういう作り方をすべきだと思いますけれども、一番最速でこの数字というような狙い方をしているんじゃないかなということを思っていますので、それはかなり安全最優先で、時間的にはちゃんと工程的に練ってほしいということを申し上げましたので、今回のやつはそういうことを加味して練り込んだ工程になっているということを期待しているところです。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、同じく幹事社さん、よろしいですか。

それでは、各社お伺いをさせていただきます。ご質問がありましたら挙手のほうをよろしく願いいたします。

【記者】 先ほどのもんじゅに関してなんですけれども、昨年度も100体から86体重複するところがあるんですが、今年も遅れるということで、今後もそういった小さな積み重ねが重なれば、5年半というものも危うくなる可能性もなきにしもあらずというところで、そういった懸念というところは一切ございませんか。

【市長】 皆さんも私もそうですけれども、こうやって遅れるのが続くということに対しては、非常に日程に対する信頼性というのが薄れていくということは思いますけれども、先ほど言いましたように、前回につきましては、去年の部分につきましては、かなり目いっぱい工程を組んでいたというふうに捉えています。

今回の工程については、ある程度私も口を酸っぱくして言いましたので、万が一の部分という余裕を組みながらの日程じゃないかなというふうに期待しているところです。また、習熟度も上がってくるでしょうから、そうすると、今回きちんと間に合えば、それに対する信頼度は私どもも上がっていきますし、全体工程も間に合うというふうに思いますので、今回はきちんとやってほしいと思っています。

【記者】 関連してなんですけど、もんじゅ、機構を所管する文部科学省については、どう

いう立場というか責任というものは何かお考えはございますか。

【市長】 文科省には、きちんと安全を確認しながらやってほしいということを強く申し入れておりますので、安全性についてはしっかりと見てくれていると思っていますし、その日程について文科省がどうなのかというと、それは機構さんが出してきた日程ですので、余り文科省さんはわからんのかなというのはありますけれども、それを信じて進めていくという形になろうかと思えます。文科省さんに対しては、やっぱり安全性を最優先に指導してほしいというのが私の気持ちです。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ほかいかがでしょうか。よろしいですかね。

それでは、これもちまして6月の市長定例記者会見を終わります。

どうもありがとうございました。

午後1時55分 終了